

テストさえ無かったなら

堂本 学

内容

テストさえ無かったなら.....	1
学習をする上での精神論.....	4
筆者：堂本 学.....	11

『筆者：堂本 学』は段ボール通販サイト [アースダンボール](#) を応援しています。

学習をする上での精神論

なぜ勉強が苦痛なのか?勉強したくない理由から勉強が楽しくなる方法まで解説

親視点で考えると、「どうして子供は、勉強が苦痛に感じているのか？」ではないでしょうか。

自分が子供のころは、勉強が好きでとにかくずっと学習していた人にとっては、謎が深まるばかりかもしれません。

しかし、自分も勉強をしないで遊んでいたという場合は、少なからず気持ちは理解できるはずです。

ただ、「そんなの理解できるわけがない」と思っているなら、それは学生時代のことを忘れてからでしょう。

本記事では、勉強が苦痛に感じるのはなぜなのかについてと、勉強が楽しく感じるためにすべき方法をお伝えしていきます。

なぜ、勉強が苦痛に感じる子供が、非常に多いのか考えたことはありますか？

理由は、筆者の経験をもとに言わせてもらえば、以下の通りです。

- ・勉強内容が分からない
- ・面倒に感じる
- ・やっても将来役に立ちそうにない
- ・他に興味のある事をしたい

などなど、人によっては違うかもしれませんが、だいたい以上のどれかに当てはまるのではないのでしょうか。

筆者が学生の頃に勉強が苦痛に感じていたころに思っていたこと全てを、上記に挙げてみました。

もちろん、人によっては理由は様々です。

勉強とはつらいもので当たり前？

勉強というのは辛いものですし、辛くて当然です。

なぜなら、勉強というのは「出来る事」を増やすのが目的の一つですが、忍耐力を鍛えるという目的もあります。

たとえば、勉強が嫌いだからと言って、楽な事ばかりに逃げているようでは、社会に出て問題に直面しても逃げようとするでしょう。

そうすると、自分が失敗をしても人のせいにしたり、常に逃げの口実を考えたりするような人間になるのです。

そうならないためにも、勉強で忍耐力を鍛えるということも、大切なのだと言えますね。

また、勉強とは目的を作り、その目的に向かって解決させていくのです。

数学にしても「〇〇を解きなさい」という感じで、目的がはっきりしています。

社会に出て働き始めても、「〇〇をしてください」という感じで、目的がはっきりしているのです。

学校とは、社会に出て「〇〇をしなさい」という目的達成のための、一つの練習の場だと筆者は考えています。

つまり、勉強とはつらくて当然であり、それが当たり前なので諦めてください(笑)

大人たちが子供を勉強嫌いにさせている？

結局、子供の勉強嫌いの原因は、親が原因だったりすることが非常に多いような気がします。

筆者も学生の頃を重いお出せば、勉強嫌いでしたし、その原因は親にあったのです。

ただ、これだけは言えるのが、勉強嫌いな子も勉強が好きな子も、実はもともといません。

勉強嫌いになるやり方と勉強が好きになるやり方の、2つが存在するだけです。

子供が勉強嫌いになる原因は、「親の声かけ」「親の勉強に対するイメージ」なども含まれています。

子供が勉強嫌いになる原因を、一つ一つお伝えしていきます。

勉強内容が理解できていない

子供が勉強嫌いになる理由の一つは、「勉強内容が理解できていないから」が原因だと言えます。

勉強が分からないなら、確かに勉強は苦痛に感じるでしょう。

筆者も学生のころは、勉強内容が理解できていないのに、勉強をしたとしても苦痛に感じていました。

学校では宿題が今でもあるのかは謎ですが、筆者が学生のころは宿題があり自宅で学習をして、学校に提出をしていたのです。

しかし、勉強内容が理解できていない場合は、宿題なんてできるわけがありません。

なのに、「宿題を早く終わらせなさい」と親に怒られ、しぶしぶ宿題をしても理解できていないから、全く進まないのです。

そうすると、子供は勉強嫌いになり、負のスパイラルに陥ってしまいます。

子供の成績が悪い悪くないにかかわらず、勉強を見ないということは、勉強内容が分からない部分までも見過ごしやすくなるのです。

そうすると、徐々に子供の成績が悪くなり、最終的には取り返しのつかない結果になるでしょう。

そうならないためにも、「わからない」を早めに潰していかないと、学年が上がるにつれてドンドン分からなくなり、授業についていけなくなっていくのです。

挙句の果てに「分からない部分が分からない」ということになってしまい、どうしようもなくなるケースもあるのです。

分からないところを自分で調べて、自分で解決できる子はいないと思ったほうが良いでしょう。

小学校低学年から親が勉強を忙しくても見てあげて、分からない部分を一つ一つ潰していくことが大切なのです。

「分からないから勉強は嫌いだ」となる前に、分からないことを早めに見つけて潰していくようにしましょう。

勉強を強制している

子供のころに「早く宿題をきなさい」とか、「勉強をきなさい」など言われた経験はありませんか？しかし、そういう強制されたときに限って、心理的に反発してしまうことが多いです。

人というのは自分の行動や選択は、自分で決めたいという欲求を持っています。

なので、誰かに「態度や行動の自由」を脅かされると、自由を回復させようと努力し始めます。

こういう状態を「心理的リアクタンス」というのです。

「〇〇きなさい」と言われると、「〇〇したくなくなる」というのは心理的リアクタンスが機能しています。

高圧的な説得をした場合は、逆効果だということになります。

強制をしないほうが良いとは言えない！？

今までの内容を読む限りでは、「じゃあ、何も言わないほうが良いんですね？」となるかもしれません。

しかし、ここでいう「自由」というのと、「勉強をしなくて良い」というのはかなり違ってきます。

子供に対して「何も言わないほうが良い」という風に考えるのは、子供のそばで楽しみたいだけだという風にも思えるのです。

親は、時間も手間も惜しまずに自分の人生をすり減らし、子供を教育していく必要があります。

親として子供にしてあげることは、小学校で学ぶ内容を完全に習得させ、「分からない」という部分を手あたり次第解決させることなのです。

ダメ親に限って、子供の勉強を絶対見ないです。

なぜなら、自分自身が勉強ができないし嫌いだから。

冒頭でも説明していますが、子供は自ら分からない部分を見つけ、知るための努力をするということではできません。

もし、自分で分からない部分を見つけ出し、分かるようになるまで勉強ができたなら、その子供は天才でしょう。

多くの子供は、自分で分からない部分を見つけ、分かるようになるまで学習をすることはできないと考えたほうが良いです。

現在中学生でも小学生の頃の内容が分からないなら、小学生の学習内容まで戻り分からない部分を見つけ出す必要があります。

そこで「小学校で何を習ってきたんだ?!」と怒鳴ってはいけません。

一緒になって分からない部分を見つけ出し、分かるようになるまで学習をするのです。

また、始めは学習の習慣が身に付いていないので、決めた時間になれば親がそばで、きちんとついていけば良いでしょう。

とくに、教える必要はないので、勉強を見てあげるといって良いかもしれません。

子供の話をしっかり聞かないと成績が上がらない?!

結論から言えば、子供の話をしっかりと聞かない親や、子供に話を聞かない親の子供は、成績が上がりません。

筆者の親も学校での話を聞かないほうで、こちらから話そうとすると「うるさい」と言って聞こうともしませんでした。

そういう親に育てられた子供は、心に壁を作り人と話をしない人間になったり、人に相談をしたりすることもせず自分ですべてを背負うようになるのです。

そういう子供は、成績が上がりにくい感じがします。

勉強が楽しくなる方法

子供が勉強が好きになってもらえるには、「楽しい」と思ってもらえる工夫が大切です。ただ、子供に対して虐待がしたいだけなら、暴力をふるう理由付けが欲しいので、楽しいと思ってもらう必要はないでしょう（苦笑）しかし、虐待がしたいと思う頭がおかしい親ではなく、一般的な親なら「子供には楽しく勉強をしてほしい」と思うはずです。

子供に勉強が楽しいと感じてもらうためには、「興味を持ってもらう」という風にする必要があります。

勉強を楽しんでいると感じてもらうためには、ゲームのように問題を解いていくようにしたほうが良いでしょう。

「勉強は遊びじゃない」という風に考える人は、非常に多いかもしれません。

ですが、勉強嫌いの子供に対して、どういう風に学習を習慣づけていくかを考える必要があります。子供でも大人でも興味があることについては、自分で調べて知識をどんどん深めていくでしょう。知らず知らずのうちに、色々な事を覚えているはずですよ。

たとえば、ドラゴンクエストなどを例にすると、「ホイミ」や「ベホイミ」など呪文を覚えている人も結構いるでしょう。

どちらも回復系の呪文ですが、興味があることは本当に知識が豊富に膨れ上がります。

「勉強は遊びじゃない」という固定概念を覆し、逆転の発想で「勉強は遊びだ！」にすれば、勉強嫌いでも楽しいと思ってもらえるようになるでしょう。

勉強や宿題などを義務感で行っていると、なかなかモチベーションが上がりにくいです。勉強が義務でなく、ゲーム感覚で一つ一つクリアしていくと、勉強そのものが楽しめるようになるのです。

勉強や宿題を終わらせたことで、メリットがあればやる気が出るという人もいます。

勉強や宿題を始める動機づけを用意し、勉強を楽しく感じさせるのも一つの方法です。

「うちの子はペットじゃない！」と考える人もいますが、それは違います。

大人になり働くとお金をもらうことができます。

これは、働くことで、何らかのメリットがあるから働く人がいるのです。

つまり、宿題や勉強も何らかのメリットを付け加えることで、やる気を上げさせることができるのです。

まとめ

将来的に役立ちそうにない勉強を、どうして行わなければいけないのか？

それは、視野を増やすためであり、問題を解決する力を養うためでもあります。

大人になっても勉強は必要ですが、人によっては学生のころにしていた勉強とは、少し違ったものとなるかもしれません。

筆者は大人ですが、今も勉強をしています。

どんな勉強かと言えば、動画作成の勉強やブログ売買の勉強です。

とくに、ブログ売買の場合は計算もしないといけないので、数学は必須だと言えるでしょう。

子供に勉強をやらせるという意識では、成績アップにはつながりません。

どうすれば、勉強を自らしてくれるのかを考え、色々な工夫をしていくしかないでしょう。

筆者：堂本 学

小学生のやる気を出させたら宇宙一！

小島よしおもビックリのヒカキンネタで笑わせます><